

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F133310109572	設置等組織名	情報デザイン学部 情報デザイン学科
大学名	ノートルダム清心女子大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	岡山県	事業計画名	情報デザイン学部事業計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1			R5年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出				
フェーズ1後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	・令和6年度…文学部入学定員削減検討、収容定員に係る学則変更届出予定	令和6年4月 文学部英語英文学科30人減員に係る届出（入学定員60人、文学関係） 文学部日本語日本文学科10人減員に係る届出（入学定員60人、文学関係） 文学部現代社会学科10人減員に係る届出（入学定員60人、文学関係、社会学・社会福祉学関係） 人間生活学部児童学科20人減員に係る届出（入学定員110人、教育学・保育学関係） 令和7年度 文学部英語英文学科減員（同上） 文学部日本語日本文学科減員（同上） 文学部現代社会学科減員（同上） 人間生活学部児童学科減員（同上）	R6年度自己評価	【4】計画を上回って実施している。 当初は文学部3学科のみの定員減を予定していたが、18歳人口の現状を鑑み、教育の質を向上させることを目的として、文学部英語英文学科・日本語日本文学科・現代社会学科に加え人間生活学部児童学科の入学定員及び収容定員に係る学則変更の届出を4月に実施した。
開設又は定員増	令和6年4月 情報デザイン学部情報デザイン学科開設（入学定員100人、工学関係）	令和6年4月 情報デザイン学部情報デザイン学科開設（入学定員90人、工学関係）		
フェーズ2後倒し	・令和6年8月…（仮称）情報デザイン棟検討委員会発足予定 ・令和7年2月…（仮称）情報デザイン棟契約予定 ・令和7年3月…（仮称）情報デザイン棟着工予定 ・令和8年3月…（仮称）情報デザイン棟竣工予定	2-① 令和7年1月 情報デザイン学部成長分野転換支援基金助成金運用委員会発足	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 令和7年1月に情報デザイン学部成長分野転換支援基金助成金の運用についての委員会を発足し、定期的に委員会を開催し、今後の事業計画についての実施方法についての検討を重ねている。
フェーズ3	・令和6年4月以降…情報デザイン学部開設、クラウドシステム・IT設備等利用開始 ・令和6年4月以降…PBL協力企業開拓 ・令和7年4月以降…岡山理科大学等とワークショップ等開催予定 ・令和8年4月…PBL実施	3-① 令和6年4月 情報デザイン学部情報デザイン学科開設、クラウドシステム、IT設備等利用開始 3-② 令和6年4月～ PBL協力企業開拓 3-③ 令和6年10月～ 高校出張講座、ワークショップ等開催	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 令和6年4月に情報デザイン学部が開設され、クラウドシステムやIT設備等を利用した授業・研究等が開始された。また、令和8年度に開設するPBLに関する授業について協力企業も順次開拓している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和6年4月 文学部英語英文学科入学定員30人減員・日本語日本文学科10人減員・現代社会学科10人減員、人間生活学部児童学科20人減員に係る届出提出	令和6年4月 文学部英語英文学科30人減員に係る届出（入学定員60人、文学関係） 文学部日本語日本文学科10人減員に係る届出（入学定員60人、文学関係） 文学部現代社会学科10人減員に係る届出（入学定員60人、文学関係、社会学・社会福祉学関係） 人間生活学部児童学科20人減員に係る届出（入学定員110人、教育学・保育学関係） 令和7年度 文学部英語英文学科減員（同上） 文学部日本語日本文学科減員（同上） 文学部現代社会学科減員（同上） 人間生活学部児童学科減員（同上）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	ノートルダム清心女子大学
-------------	-------	-----	--------------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。			
	確認を受けている			☒ チェック
	確認の対象に該当しない			☐ チェック

②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。		
	計画通りに進んでいる		

③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）		
	計画通りに進んでいる		

④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。		
	計画通りに進んでいる		

⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。		
	計画通りに進んでいる		

⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。		
	計画通りに進んでいる		

⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。		
	計画通りに進んでいる		

⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる		

⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。		
	計画通りに進んでいる		

⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）		
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った		

⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。		
	計画通りに進んでいる		

⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。		
	計画通りに進んでいる		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	ノートルダム清心女子大学
-------------	-------	-----	--------------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
計画通りに進んでいる	■ チェック	

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック	

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック	

4. 審査要件における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和8年から実施予定となっているPBLに対して、岡山県内企業（株）天満屋ストアと（株）宗家源吉兆庵に令和4年度に協力依頼の申し入れを行い、快諾を得ている。具体的なPBL課題の実施方法については、企業側と調整が可能となる令和6年度より実施予定である。また、PBL課題の提供も念頭にいた共同研究を（株）大阪NDS等と令和5年度より実施している。 地域の他大学との取り組みの観点からは、岡山理科大学と同大学情報工学科のAI、人工知能の教育研究者から招いてとの講演会やワークショップを実施する計画である。将来の単位互換等の可能性を含め、検討の予定である。そのために完成年度までの定期的な講演会、相互関連でのセミナー・ワークショップを実施する計画である。	（株）天満屋を含む23のグループ会社をもつ天満屋グループと両備システムズと包括的連携協力に関する協定を締結した（令和5年1月31日）。今後、PBLの活動に、天満屋グループの持つ資源やノウハウを活用し相互に連携・協力することで、地域課題の解決に協働するとともにデジタル社会を切り開く次世代の育成に貢献していく。大阪NDS社との共同研究も実施しており、PBL課題の抽出を進めている。	他大学との連携については、学部開設前であるため赴任予定の教員がそろった令和5年度以降に、教員の研究分野等を考慮しつつ進める予定である。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では従来より多様な入学者の確保をすべく、共通試験を利用した筆記試験に加えて、面接や口頭試問を中心とした総合入試を行っている。当該学部でもその枠組みで入試を実施し、学生確保を行う計画である。本学は女子大学であり、特に情報分野での女子学生の確保増の活動を行っている。既に多様な学生を受け入れるための社会人入学、帰国子女入学、学士入学などの特別選抜を実施しており、当該学部でも実施予定である。科目等履修生制度、聴講生制度もあり、学生の学びの状況に応じた対応が可能である。出張講義の仕組みも有しており、当該学部も実施予定である。地域の初等中等教育との連携では、学校の要望に応え、既存の各学科で出張講義を実施しているが、当該学部においても高等学校の理系コースや情報科のみならず文系コースにも積極的に出向き、女子生徒のDXへの興味関心を喚起するような講義内容を検討している。	申請時の計画に加えて、総合型選抜で、オープンキャンパスで実施する大学のプログラミング入門を参加し自身でプログラムを作成、入試時にプレゼンテーションする体験学習型入試を実施することにした。 出張講義実施のための講義科目を作成した。HPに掲載予定である。	社会人入学に向けた取り組みが必要である。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	ノートルダム清心女子大学
-------------	-------	-----	--------------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	ノートルダム清心女子大学
-------------	-------	-----	--------------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■

チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■

チェック

⑭

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■

チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
-
- チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和8年から実施予定となっているPBLに対して、岡山県内企業（株）天満屋ストアと（株）宗家源吉兆庵に令和4年度に協力依頼の申し入れを行い、快諾を得ている。具体的なPBL課題の実施方法については、企業側と調整が可能となる令和6年度より実施予定である。また、PBL課題の提供も念頭にいた共同研究を（株）大阪NDS等と令和5年度より実施している。 地域の他大学との取り組みの観点からは、岡山理科大学と同大学情報工学部のAI、人工知能の教育研究者から招いてとの講演会やワークショップを実施する計画である。将来の単位互換等の可能性を含め、検討の予定である。そのために完成年度までの定期的な講演会、相互関連でのセミナー・ワークショップを実施する計画である。	天満屋と両備システムズとPrePBL(PBLの前段)を半年から3か月に渡って実施した。	2024年度の実施した際には、企業側の初めての経験で、情報デザイン学科のポテンシャルを見せるところや、企業の持つ課題の抽出といところまで到達しなかった。今年度、さらに学科のポテンシャルのアピールと企業と信頼関係を醸成しながら、PBLを成功させるための基盤を構築していく必要がある。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
-
- チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

■

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

■

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では従来より多様な入学者の確保をすべく、共通試験を利用した筆記試験に加えて、面接や口頭試問を中心とした総合入試を行っている。当該学部でもその枠組みで入試を実施し、学生確保を行う計画である。本学は女子大学であり、特に情報分野での女子学生の確保増の活動を行っている。既に多様な学生を受け入れるための社会人入学、帰国子女入学、学士入学などの特別選抜を実施しており、当該学部でも実施予定である。科目等履修生制度、聴講生制度もあり、学生の学びの状況に応じた対応が可能である。出張講義の仕組みも有しており、当該学部も実施予定である。地域の初等中等教育との連携では、学校の要望に応え、既存の各学科で出張講義を実施しているが、当該学部においても高等学校の理系コースや情報科のみならず文系コースにも積極的に出向き、女子生徒のDXへの興味関心を喚起するような講義内容を検討している。	以下を実施した。 －岡山県内の高校(岡山大安寺中等教育学校)に出向き、職員向け生成AIの講習やデータ解析の出張講義を行った。 －岡山県教育庁が主催するSTEM教材作成に協力することになった。活動そのものは2026年度に行う。 －岡山県内の高校の探究活動の発表の場で、本学の教育、研究活動をアピールした。 －岡山県のイベントで小学生向けのプログラミング授業を学生と共に行った。 －産学官で地域課題の解決を目指すイベントで、本学の教員の研究活動を紹介した。 －吉備創生カレッジという生涯教育講座でITでの心理学応用の紹介を行った。	全学で受験者数の増加のための取り組み（選考のシンプル化、留学生受け入れための整備）を行っており、当学科でも情報系の生徒の受験が簡単になるよう選考の見直しを行っている。 学外への紹介活動は活発に行っており、徐々に本学部・学科（情報デザイン学部情報デザイン学科）の名前が広まりつつあると思うが、多様な入学者獲得に結びついていないのが現実である。地道にかつ組織的な取り組みを検討している。特にITやプログラミングに関心をもつ生徒を増やす必要があると考えており、ワークショップ実施や大学へのインターンシップを検討している。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	ノートルダム清心女子大学
-------------	-------	-----	--------------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
実施状況報告書留意事項（R6年度）	R6年度入学定員充足率が0.51倍（情報デザイン学部情報デザイン学科）となっている。入学定員未充足の改善に務めること。	2024年度実施した、総合型選抜:上述の体験授業参加型によるプログラムのプレゼンテーション、高校での活動のプレゼンテーション、あるいは学科適正検査に加えて、以下の広報活動を行う。 ・進研アド模試デジDMによる高校生へのアプローチ ・DXハイスクールとの連携 ※出張講義の開催 ・オンラインオープンキャンパス・オープンハウス ※高校生と保護者が対象

大学名	ノートルダム清心女子大学
-----	--------------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	520	710	640																
		入学者数	人	451	542	608																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	520	710	640																
		入学者数(B)	人	451	542	608																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.87	0.76	0.95																
	収容定員等	収容定員(C)	人	2030	2270	2390																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	1763	1891	2055																
		編入学者数	人	1	0	0																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.87	0.83	0.86																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定	増員												
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	31,490	24,296	22,483	22,690	30,222	26,037	37,801												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	25,736
本事業による助成金の額(F)	千円	940,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	49,236

特記事項

収容定員等の編入学定員0人とは、若干名を意味している。
